



## ヒマワリの種は、どうしてあんなにたくさんできるの

### ヒマワリはなの花は、ちい小さい花があつ集まったものだから

ヒマワリは、キクやタンポポなどと同じ仲間です。一つに見える大きな花は、じつは、たくさんの小さな花が集まってできているのです。

ヒマワリの外側にある花びらの部分は、おしべもめしべもない花（舌状花）で、種はできません。中側の点々のように見えるものが、一つ一つ、つつのような花びらと、めしべ、おしべをもつ花（管状花）なのです。外側の花びらが開いた後、よく観察していると、小さい花が外側から順に開いていくのが、色が変わってくることでわかります。

### ヒマワリたねの種は、そとがわ外側からせいちょう成長していく

ヒマワリはなの花は、そとがわ外側からじゅん順に、ちい小さい花びらが落ちて、たね種がふくらんでいきます。そして、さいご最後は、ぜんたい全体の種がくろ黒くじゆく熟して、つぶつぶのかたまりになります。大きな花なら、はな一つの花で、こいじょう1000個以上の種がとれることもあります。（監修・矢野 亮）

